

# がん診療連携拠点病院： 栃木県立がんセンターの現状と 今後の課題

栃木県立がんセンター

所長兼病院長  
児玉 哲郎

# 栃木県立がんセンター

福島県

群馬県

茨城県

埼玉県

東京都



- 市町村行政管轄境界
- 二次保健医療圏境界
- ◎ 広域健康福祉センター
- 地域健康福祉センター
- △ 宇都宮市保健所

県北保健医療圏

市町村数 7  
基準病床数 2,431

県西保健医療圏

市町村数 3  
基準病床数 1,403



県東・央保健医療圏

市町村数 12  
基準病床数 6,469

両毛保健医療圏

市町村数 2  
基準病床数 2,176

県南保健医療圏

市町村数 9  
基準病床数 3,387

栃木県: 人口約200万人  
5つの医療圏



# 栃木県立がんセンターの診療概要

- ・1986年9月1日開院、紹介予約制
- ・324床(9ヶ病棟):病床利用率83.7%、平均在院日数21.6日  
(緩和ケア病棟を除く)
- ・**院内がん登録**(開院時より実施、2006年より外来患者登録開始)

## 〈診療の基本方針〉

- ・臓器別診療グループ制(例:肺がんグループ、胃がんグループ、など)
- ・多部門(画像診断、外科、放射線治療、化学療法、病理等)、  
多職種(医師、看護師、薬剤師、臨床放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、保健師)連携のチーム医療
- ・早期から終末期まで(cureからcare)の一貫した診療体制
- ・認定看護師(WOC、がん性疼痛看護、ホスピスケア、がん化学療法看護、乳がん看護等)をはじめとするがん専門コメディカルの積極的任用
- ・臨床試験、治験の推進(臨床研究審査委員会、臨床試験管理室体制)

# 栃木県立がんセンターの診療の実績

## 〈2005年度の診療成績〉

- ・外来患者数97,732人(内初診患者5,037人)、1日平均400.5人、紹介率 90%
- ・退院患者数 3,933人、うちがん患者数 3,776人(96. 0%)

### A.検査部門

- 1 画像診断:画像診断部(x線診断、内視鏡検査、超音波検査)  
x線検査24,503件、CT検査9,451件、MR検査1,829件、内視鏡検査5,330件、超音波検査5,994件、核医学検査1,273件
- 2 臨床検査部門:臨床検査部、検体検査174,407件、病理・細胞診9,333件、生理検査10,981件

### B.治療部門

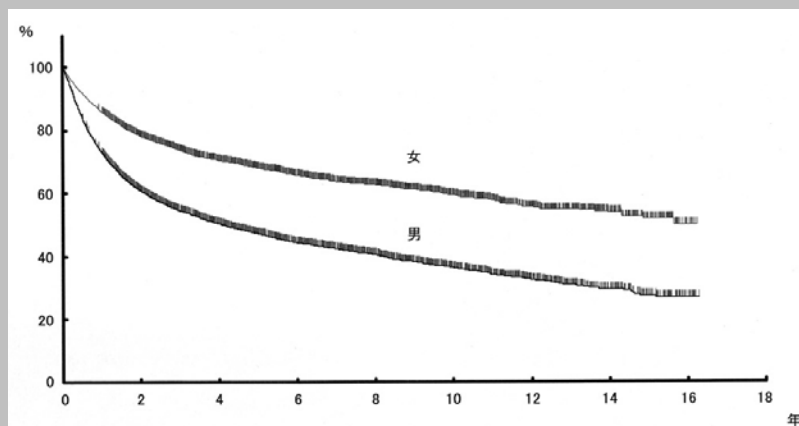
- 1 外科治療:消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、頭頸科、骨軟部腫瘍科、泌尿器科、婦人科  
麻酔件数1,471件、悪性腫瘍手術件数1,150件
- 2 化学療法:腫瘍内科、呼吸器内科、血液内科など  
化学療法件数(サイクル数):515件(2006年8月)  
外来化学療法センター(18床):4,425件(2005年度:2005年5月開設)
- 3 放射線治療:放射線治療部  
全照射件数21,463件:体外照射20,312件(918人)、密封線源105件、他
- 4 緩和医療:緩和ケア病棟(24床)、緩和ケアチーム  
緩和ケア病棟(入院患者数112人・退院患者数173人)、緩和ケアチーム取扱患者数110人

# 栃木県立がんセンター一院内がん登録

	新登録患者数			累積登録患者数		
	男	女	計	男	女	計
1986	99	70	169	99	70	169
1987	225	205	430	324	275	599
1988	257	198	455	581	473	1,054
1989	272	186	458	853	659	1,512
1990	294	265	559	1,147	924	2,071
1991	332	288	620	1,479	1,212	2,691
1992	334	253	587	1,813	1,465	3,278
1993	382	315	697	2,195	1,780	3,975
1994	348	299	647	2,543	2,079	4,622
1996	402	321	723	2,945	2,400	5,345
1997	373	358	731	3,318	2,758	6,076
1998	454	361	815	4,158	3,477	7,635
1999	419	377	796	4,577	3,854	8,431
2000	449	378	827	5,026	4,232	9,258
2001	518	509	1,027	5,547	4,746	10,293
2002	657	559	1,216	6,209	5,305	11,514

2006年1月より  
外来患者登録も開始  
・casefinder system  
の導入

(生存率曲線、初  
発・原発、:1986~  
2002年)



全部位	男	女
対象者数	5,660	4,728
死亡者数	3,131	1,555
消息不明数	31	40
生存者数	2,498	3,133

# 患者サービス・相談支援部門整備経過概要

- 1986年 9月 **がんセンター開院(200床)、看護相談開始**
- 1999年 6月 **がん予防相談(遺伝相談)外来開始**
- 2000年 7月 **禁煙サポート‘緑の外来’開始**
  - 11月 **新病棟(東館:208床)開棟、緩和ケア病棟(24床)開設**
  - 12月 **栃木県立がんセンター ホームページ完成**
- 2001年 4月 **病診連携室開設(保健師3名:医事課)**
- 2002年 4月 **新館新築本館改修、全10病棟、357床体制スタート**
  - 9月 **がんセンターだより第一号発行(2回/年発行)**
  - 12月 **「地域がん診療拠点病院」指定**  
**患者図書室「こやま文庫」開設**
- 2003年 4月 **建物内全面禁煙実施**
  - 11月 **ホームページ全面改編**
- 2004年 2月 **病院機能評価(Ver.4)認定**
  - 10月 **栃木県立がんセンターの目指すべき医療(政策医療)の制定**
  - 11月 **市民公開講座第1回開催**
- 2005年 4月 **緩和ケアチーム立ち上げ**  
**セカンドオピニオン外来開設(保険外有料、1年間129件相談)**
  - 5月 **外来化学療法センター(18床)開棟、9病棟、324床に再編**
  - 11月 **市民公開講座第2回開催**
- 2006年 5月 **敷地内全面禁煙実施**
  - 9月 **がんセンター開院20周年**
- 2007年 3月 **がん情報センター・相談支援センター開設予定**

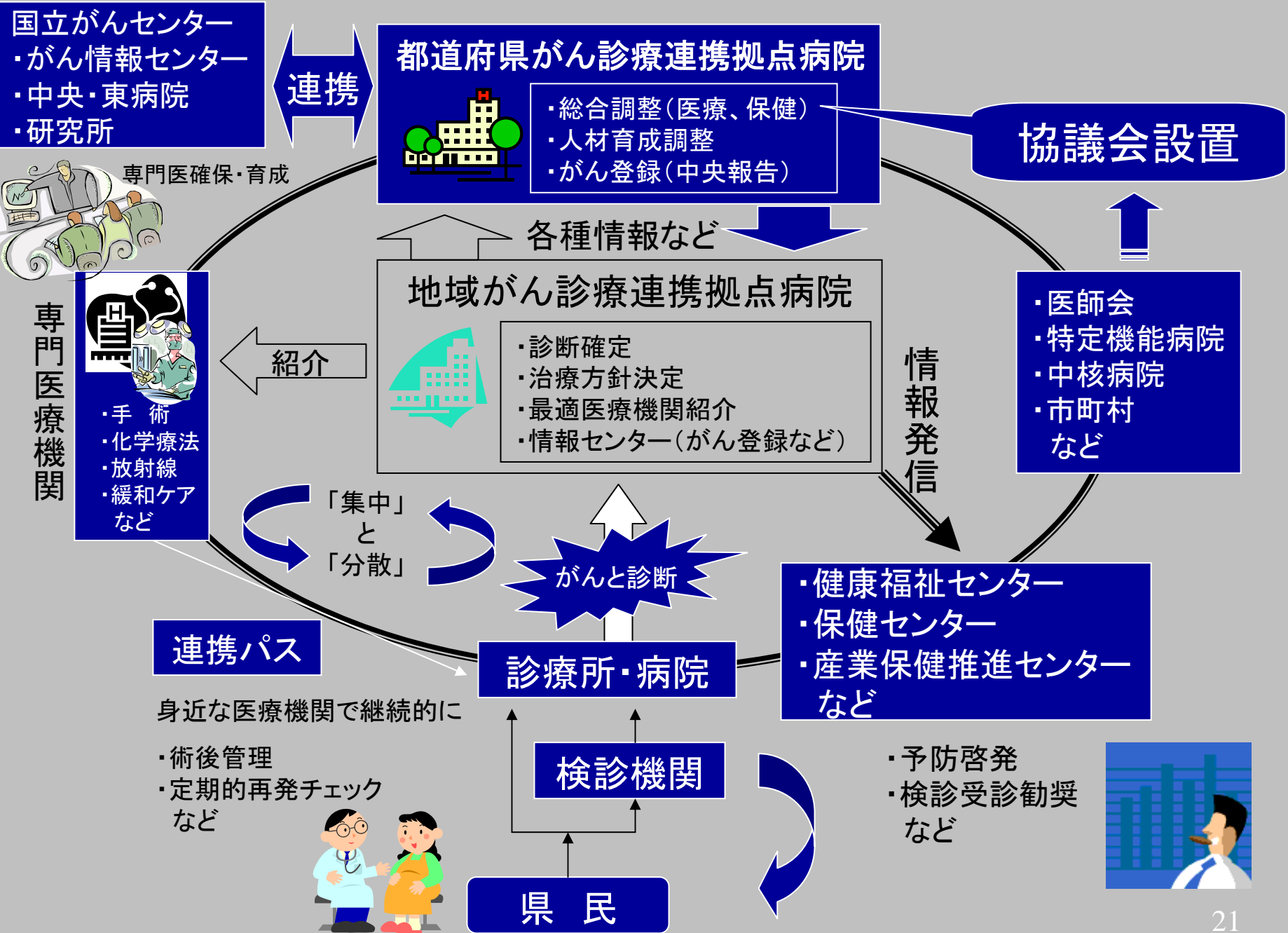
# 栃木県立がんセンター医療相談件数

区分		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
面接	入院患者	1,121	1,007	632	432	836
	外来患者	396	202	516	231	590
	その他	1,127	1,415	1,253	1,166	1,038
電話相談	当病院患者	1,157	629	423	421	118
	その他	274	294	396	320	253
メール相談		10	20	36	119	78
病診連携関係		-	99	678	761	590
合計		4,085	3,666	3,934	3,450	3,503

## 医療相談内容：

- ①疾病、治療に関すること、②在宅療養に関すること、
- ③各種制度紹介（高額医療費助成制度及び貸付制度、介護保険制度、訪問看護制度、在宅酸素療法、生活保護制度、母子家庭医療費助成制度、機器の貸出、レンタルなど）
- ④経済的問題、⑤家庭問題、⑥患者会、⑦初回入院者との面接、⑧その他（他院からの転院希望、施設紹介、検診、医療関係者とのコミュニケーションのとり方、病院への関わり方、など）

# がん診療連携拠点病院を中心とした栃木県のがん総合対策





# 栃木県立がんセンター

## がん情報センター・相談支援センターの設置

がん患者・家族および医療関係者に対する相談支援事業  
および情報提供・情報発信事業を行う

### ―― 現有各種機能の統合と発展

#### ・相談支援(医療連携)機能

1. よろず相談、看護相談
2. 医療相談、緩和ケア相談  
セカンドオピニオン外来、禁煙外来
3. 医療連携、在宅療養支援など

#### ・情報発信機能

1. ホームページ、文書配布
2. 市民公開講座、出張講演会(含禁煙教育)
3. がん登録など

#### ・教育研修機能(事務局)

1. 教育研修計画立案
2. 教育研修の実施支援など

がん診療連携拠点病院に求められる相談支援センターの業務

- ・一般的な医療情報の提供
- ・地域の医療機関や医療従事者に関する情報の収集、紹介
- ・セカンドオピニオン医師の紹介
- ・患者の療養上の相談
- ・患者、地域の医療機関、かかりつけ医等への意識調査
- ・連携事例に関する情報の収集、紹介
- ・アスベストに関する医療相談
- ・その他、相談支援

# 栃木県立がんセンター-の役割と課題

1.がん診療連携拠点病院(都道府県/地域)

2.県立病院



・県民の求めるがん医療の実施

・政策医療の実施

:県のがん診療中核医療機関としての責務

- ①専門医療機関(検診、診断から治療、緩和医療まで):**役割分担**の明確化
- ②情報発信:正確ながん情報の発信、**患者の求める地域独自の情報の発信**
- ③相談支援:セカンドオピニオン外来、医療相談、患者会等の**支援活動**
- ④**医療連携(病病連携、病診連携)の構築**:検査から緩和医療まで
- ⑤**教育研修**:(がん診療従事者:医師、コメディカルの養成)

## 課題

- ①国立がんセンター-からの専門的診療支援---診療レベルの向上
- ②人材確保:医師不足、看護師等の不足の現状---安心医療の提供
- ③公立病院としての病院スタッフ定員枠の限界、迅速な対応への限界